

Vine



山梨大学
UNIVERSITY OF YAMANASHI

特集1 令和5年4月就任 **中村和彦**新学長に聞く“これからの山梨大学”

特集2 **“ワイン科学研究センター”**がリニューアル!

～最新のワイン研究に迫る～

【人物発掘】 大学院総合研究部工学域 電気電子情報工学系(コンピュータ理工学) 郷 健太郎教授

【ゼミ紹介】 生命環境学部地域社会システム学科 平井研究室

【ぴゅあっがレッスン】 化学実験

【クローズアップび〜ぶる】 宮澤玲成(教育学部幼小発達教育コース4年) / 川森淳司(医学部医学科5年)

【サークル紹介】 山梨大学ダンス部 / 山梨大学合唱団 / 医学部弓道部 / 医学部交響楽団

UNIVERSITY OF YAMANASHI NEWS & TOPICS



令和5年4月就任

中村 和彦 新学長に聞く “これからの山梨大学”

中村 和彦 (なかむら かずひこ)

【専門分野】
教育学、発育発達学

【経歴】

1978年 山梨県立甲府第一高等学校卒業
 1982年 山梨大学教育学部卒業
 1986年 筑波大学大学院体育研究科修了
 2011年 山梨大学教育学部教授
 2015年 山梨大学教育学部長・大学院教育学研究科長
 2021年 山梨大学理事(教学・国際交流担当)・副学長

【社会貢献】

山梨県少人数教育推進検討委員会委員長
 文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会委員
 文部科学省中央教育審議会専門部会委員
 日本教育大学協会理事
 (財)日本レクリエーション協会理事
 (財)日本オリンピック委員会ゴールドプラン専門委員会委員 等

Q1 ご専門は教育学・発育発達学ですが、 なぜこの分野に進もうと思われたのですか。

中学生の頃から、当時社会問題となっていた公害、特に水俣病に関心を持ち、高校時代はレイチェル・カーソンの『沈黙の春』や石牟礼道子の『苦海浄土』などの環境問題・公害に関する書籍を読んだり、東京大学の自主講座に通ったりしていました。教育学を目指した理由は、環境問題や公害を素材にして「幸せに生きるとは何か」を考える教育をしたいと思ったからです。

山梨大学に入学し、その後、筑波大学大学院で師事した宮丸凱史先生、森昭三先生の論文や著作に出会い、「子どもの豊かな心と健やかな体を育む」ことを目指す発育発達学を学ぼうと思いました。

Q2 本学のご出身ですが、学生時代の思い出やエピソード、 また卒業生として山梨大学のいいところを教えてください。

同級生をはじめ先輩・後輩など多くの仲間に恵まれた大学生活でした。私は保健体育科、現在の芸術身体教育コースに所属していましたが、保健体育科以外の教育学部の仲間や、工学部の友達とも、サークルや部活動などのさまざまな活動を通して知り合い、その交流は現在でも続いています。

山梨大学のいいところは、なんといっても学生と教職員の距離が近いことだと思います。学生の皆さんには遠慮せずに、教職員と関わりを持ってほしいと思います。一人ひとりの学生に寄り添って有益なアドバイスをしてくれます。



学生と学長が直接意見交換できる「オフィスアワー」を実施予定! ぜひ活用してください!

Q3 この度学長に就任されることになりましたが、 まず初めに思われたことをお聞かせください。

学生の皆さんがより居心地よく学ぶことができ、教職員の方々がより気欲をもって仕事ができる山梨大学にしていきたいと思います。そのためには学生や教職員の皆さんに山梨大学が掲げている目標や計画についてしっかりと説明して理解を深めていただくとともに、対話を重視しながら、「チーム梨大」のもと「特色ある魅力溢れる大学」を目指したいと考えています。

Q4 学長として成し遂げたいこと、 これからの山梨大学のビジョンを教えてください。

これからの山梨大学のビジョンとして、以下のことを実行していきたいと考えています。

- ① **教育改革の推進**：他大学との教育連携のもと、学生の皆さんの授業の選択肢を拡大させるとともに、意欲をもって主体的に学習に取り組める教育を推進していきます。また、高大接続教育の改革や留学生の受入れ、海外派遣プログラムを拡充してグローバル化を進めます。
- ② **研究支援体制の強化**：山梨大学には、クリーンエネルギー・発生工学・先端脳科学・ワイン等、本学ならではの特色ある研究がたくさんあります。こうした研究の国際展開、また、新たな研究分野の開拓や全学的な研究力の底上げに向けて、様々な支援を行っていきます。学生の皆さんにもぜひ研究の楽しさを経験してほしいと思います。
- ③ **地域との連携の強化**：産業界・自治体等と連携し、少子化・医療対策・人口減といった地域の抱えている問題の解決に取り組んでいきます。また、地域のニーズを踏まえた人材育成のためのリカレント教育を推進していきます。学生の皆さんが社会人の方々と机を並べて学ぶことで、多くの気づきを得ることと確信しています。

Q5 学生へメッセージをお願いします。

私は学生の皆さんへ、山梨大学を卒業され、ノーベル医学・生理学賞を受賞された大村智先生から学んだ『至誠惻怛』という言葉を送りたいと思います。『至誠惻怛』とは「誠意をもって物事に取り組み、人の心を慮ることで世の中を良くすることができる。そのことが自分自身の生き様となる。」という意味の言葉です。学生生活、さらには将来において、関わる人への思いやりを大切にして、人にやさしい生き方をしてほしいと思います。



至誠惻怛 中村和彦



“ワイン科学研究センター”がリニューアル!

～最新のワイン研究に迫る～

令和4年4月にリニューアルされたワイン科学研究センター。

新棟には、学生の増加やリカレント教育に対応できる教育・研究スペースやこれまで別棟にあった技術者の教育や企業への技術的援助等を行うための「エクステンション部門」が集約され、効率的な分析業務や共同研究を行うことができるようになりました。



ワインセラー

ワイン科学研究センターが開発した技術をもとに醸造された「山梨大学ワイン」や山梨県内ワイナリーが造った甲州ワインが陳列されています。

機器分析室

ブドウやワインの味や香りを物質レベルで分析する最新機器を完備しています。



官能検査室

ワインの特徴や品質を客観的に評価するために官能検査室を準備しました。いつも同じ環境でワインを検査できるようになりました。



ワイン科学研究センターとは?

ワイン科学研究センターは、果実酒を専門に研究する機関として、昭和22年(1947)年、山梨大学工学部の前身である山梨工業専門学校に、附属発酵研究所として設置されたのが始まりです。

発足当時は、山梨県の特産品であるワインの品質向上を目的として、ワイン醸造に関する基礎研究を地域と密着して行ってきました。

現在はわが国のワイン産業の発展に伴い、世界的視野に立ち、先端的な細胞工学あるいは遺伝子工学技術を駆使した基盤研究から、最新のブドウ栽培並びにワイン醸造の実用研究までを包括する研究センターになっています。

研究①



斉藤 史恵助教

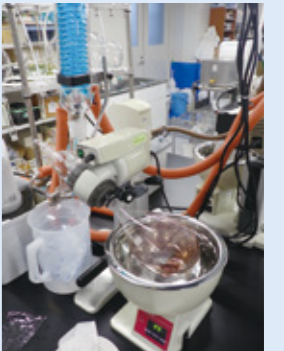
ワインを微生物汚染から守る

おいしく品質の良いワイン造りを行うために注意しなければならないこととして、微生物汚染があります。微生物汚染がおこってしまうと、ワインからお酢や酢、溶剤のような不快なおいが加わり、本来の香りを損なってしまいます。私は、産膜酵母によって引き起こされる産膜という微生物汚染に困っているという醸造現場の声をきっかけに、産膜について研究をはじめました。そして、実験をしていくうちに産



母によって引き起こされる産膜という微生物汚染に困っているという醸造現場の声をきっかけに、産膜について研究をはじめました。そして、実験をしていくうちに産

膜がおこるワインとそうでないワインがあることを発見しました。さらに研究を進めていくうちに、産膜がおこらないワインでは、産膜酵母の増殖を抑える成分が存在することがわかってきました。現在は、この抑制成分がどのようなものなのかを明らかにする研究をおこなっています。近年、抗菌物質である亜硫酸を添加しないワインのニーズが高まっています。微生物汚染の防止効果のある成分をワインから発見できれば、亜硫酸の添加量を減らしながらも品質の高いワインを造ることができると考えています。



ワインからの成分抽出作業

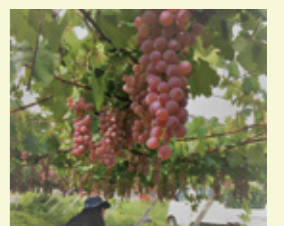
研究②



榎 真一助教

ゲノム解析によるワイン用ブドウ品種「甲州」の遺伝的特徴の解明

薄ピンク色の果実をもつ「甲州」は食用、ワイン用として山梨県をはじめ日本各地で栽培されています。甲州は2010年に国際ブドウ・ワイン機構に登録され、名実ともに日本を代表する白ワイン用ブドウ品種となりました。果実遺伝子工学研究部門では、東京農業大学との共同研究により、甲州の全ゲノム(全遺伝情報)を解読し、甲州の個性を遺伝子レベルで解明しました。甲州のゲノムを約120の欧州系ワイン用品種と比較したところ、甲州は他の欧州系品種のいずれにも属さず、白ブドウと赤ブドウの両方に通ずるユニークな遺伝的特徴を持つことが解りました。甲州ワインは白ブドウに見られる柑橘系の爽やかな香りや



甲州ブドウ

赤ブドウで特徴的なポリフェノール由来のほのかな渋みをもつことが、これまでに知られていました。この研究は、甲州ワインの味わいが香りや渋みの成分をつくる遺伝子の変異に由来することを科学的に裏付けたものです。今後は甲州の遺伝情報に基づき、甲州ワインの品質向上に向けて、甲州の個性を活かした栽培技術や育種の研究を行う予定です。

鈴木 俊二センター長による プチワイン講座

ワインはいつ生まれたのか?

ワインを飲む人も飲まない人もワインがどこでいつ頃から飲まれていたか知りたいと思いませんか? 遺跡発掘などの考古学的解析に加え、遺跡の出土品に付着したDNAを調べる分子生物学的解析により、ワイン発祥の地を探る研究が進められています。現在知られている限りでは8000年前の遺跡で見つかった証拠が最古のものです。その場所は、グルジア(Georgia)の南部、クヴェモ・カルトリ地方にあるカダチリリ・ゴラ(Gadachrili Gora)遺跡です。この遺跡で見つかった容器にブドウを発酵させた痕跡が残っていました。



ワイン造りの優秀な土器・クヴェヴリ

この容器はクヴェヴリ(qvevri)と呼ばれる取っ手のない大きな卵形の土器で、現在も伝統的なグルジアワイン造りに使われています。クヴェヴリは地中に埋めて使います。地中に埋めることで発酵を促し、貯蔵中のワインを低い温度に保つことができます。また、卵型の形状は発酵中に果汁や果皮の循環を促します。クヴェヴリに似せた卵型発酵槽が近年注目されるほどクヴェヴリは優秀な容器なのです。8000年前から続くクヴェヴリを使ったグルジアのワイン造りは、2013年にユネスコ世界文化遺産に登録されました。石器時代のワインは宗教的な催事に使われていたり、薬として服用されていたようです。



8000年前から現在まで造り続けられているワイン。ワインの魅力にあなたもハマってみませんか?

(参考文献:米田科学アカデミー紀要 2017,114: E10309-E1031)

©National wine agency of Georgia

人物 発掘

郷 健太郎教授

大学院総合研究部工学域電気電子情報工学系 (コンピュータ理工学)



今や日々の暮らしに欠かせない存在となったコンピュータと、私たち人間のよりよいかかり方を、ユーザインタフェースの側面から研究している郷健太郎教授。スポーツに親しみ、図書館と読書をこよなく愛した少年時代から、人生を左右するような出会いに恵まれた高専時代、さらには、現在最も興味を持っているという科学哲学的なテーマまで、穏やかな笑顔で語っていただきました。



50歳になったので新たな挑戦として始めた一輪車

スポーツに取り組むかわら、図書館に通いつめた少年時代

私が育った阿蘇山の麓の町では、子どもがスポーツをすることが奨励されていました。加えて父親の『体が資本』という教育方針もあって、小さい頃からソフトボールクラブに所属し、夏は水泳、秋は陸上、冬はサッカーやスケートなどにも親しみました。一方で、本を読むことも好きでした。SF冒険小説から始めて小学校の図書館にある本を片っ端から読み漁り、卒業する頃には読破してしまいました。

中学は、地元の公立校に進みました。当時は全国的に学校が荒れていた時代で、不良に走るのには部活をやらなければという考え方を私が通う中学の先生方はもっていました。そこで全員が体育系の部活に入るといふ決まりがあり、私も友人に誘われて野球部に入りました。ところがこの野球部がとても厳しくて、特に1年生の頃は、練習の1時間前に集合して先輩のスパイクを磨いたりグラウン

ドを整備したり…。先輩を見かけたらどんなに遠くからでも必ず大声で挨拶するといったルールもありました。13歳にして前時代的な体育会の洗礼を受けたわけですが、当時は一生懸命でしたね。

宇宙飛行士を目指し、熊本電波工業高等専門学校へ

中学卒業後は熊本電波高専(現:熊本高専)情報工学科に進みました。電子工作キットを買ってきてテレビの二か国語アダプターを作るなどものづくりへの興味があったと同時に、当時抱いていたエンジニアとして宇宙飛行士になるという夢に近づくため早くから技術分野を学びたいという思いもあって選んだ進路です。

学校はとても自由でしたが、入学と同時に始まった寮生活は厳格で、いろいろな意味で貴重な経験になりました。また、勉強もしつつ、バドミントン部の活動にも懸命に取り組みました。全国的にも名の知られた同級生とダブルスを組み、彼にふさわしいパートナーになると長期休暇もほとんど帰省せず練習に励んだ結

果、5年生の時には高専の全国大会で優勝することができました。

大切な出会いもありました。なかでも大きかったのが、教養系の科目の教科書として先輩から譲り受けた「マインズアイ」という本。心の科学を扱っていて、人間とは何か、心はどこにあるのかといったことが書かれていたのですが、それがとてもおもしろくて。今思うと、この本との出会いが、後々現在の専門分野に進む最初のきっかけでした。

また、3年生の時の担任だった宮島先生との出会いも忘れられません。とてもカッコいい先生で、その先生への憧れが、大学の先生という新たな目標につな



留学時代の恩師夫婦と

がりました。当時私には、新しいものを作りたいとか、人に話をしたいとか、本を書きたいとか、とにかくたくさんやりたいことがあって、それが全部できるのが大学の先生だということに、宮島先生を見ていて気付いたんですね。

高専卒業後は、山梨大学へ編入しました。宮島先生が、都城高専から山梨大学を経て東北大学の大学院に進まれていたので、一つのロールモデルとして『こういう進路があるんだな』と思ったことや、当時、山梨大学にいらした有沢先生の著書を拝読しておもしろそうだったことなどが、山梨大学を選んだ理由です。山梨大学でもバドミントン部に入って活動する一方、早くから準備を始めて予定通り東北大学大学院に進学。その後、紆余曲折を経て、現在に至っています。

人を幸せにするものづくりを目指して

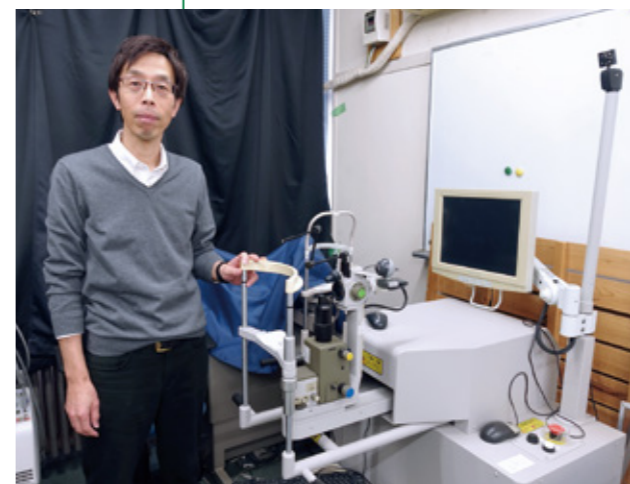
現在私が専門としているのは、ヒューマンコンピュータインタラクションという学問領域です。ユーザにとって使いやすいコンピュータをデザインするというのとはどういうことか(ユーザインタフェース)、とか、ユーザの体験をどうやってデザインするか(ユーザエクスペリエンス)といったことを考えていて、例えば、よりコンピュータを使いやすくするための文字入力の方法を模索したり、医学部の先生と遠隔での眼科診断装置の開発にも取り組んだりしています。遠隔診断装置は過疎地域の医療レベルを上げるだけでなく、医療従事者の労働環境の改善にもつながるとして、地元企業との協働のもとで実用化に向けて進めているところです。

また、個人的には、ものを作るということは何なのかということを確認させたいと思っています。科学哲学の分野では、自分の作ったものが将来どのように利用されるか予見できないと言われていて、歴史を振り返っても、開発者の思いとは裏腹に世の中を悪い方向へ導いた例が散見されます。でも、現実社会では、多く



若かり頃の国際会議でのプレゼン

の科学者や技術者が、将来誰かの役に立つようなものを作りたいと、希望を持って日々努力を重ねている。もちろん私自身も、より良い未来を創造したり、人間が健康になったり優しくなったりするようなデジタルテクノロジーを作りたいと願っています。そこで、まずは誰かのために将来役に立つようなものを作ることが本当にできるのかということや、人はなぜ作るという行為をするのか、作り手の心の健康を保つにはどうしたらいいのかといったことを確立したい。その上で、使い手も作り手も幸せにするものづくりを実現していけたらと思っています。



医学部と共同開発した遠隔眼科診療の装置

ものづくり・ことづくりに関わるしあわせを大切にしてください。世の中は、誰かのためにもの・ことを生み出す仕事で成り立っています。あなたのつくりだしたもの・ことで、みんなの未来が豊かになります。



- 【研究分野】 知能情報学
- 【学位】 博士(情報科学) 東北大学(1996)
- 【略歴】
- 1968年 熊本県生まれ
- 1989年 熊本電波高専(現:熊本高専)情報工学科卒業
- 1991年 山梨大学工学部卒業
- 1996年 東北大学大学院情報科学研究科博士課程修了
- 1996年 東北大学電気通信研究所助手
- 1998年 バージニア工科大学ヒューマン・コンピュータ・インタラクション研究所研究員
- 1999年 山梨大学工学部助手
- 2003年 山梨大学工学部助教授
- 2011年 山梨大学大学院医学工学総合研究部教授

GO Kentaro

私の宝物 | 留学中に愛用した、ジャグリングサークルのユニフォーム



東北大学電気通信研究所で博士号を取得したものの、ポストに空きがないとわかった私は、新たにユーザインタフェースを学ぶためバージニア工科大学へ留学することに。留学中は研究に励む傍ら、ジャグリングサークルに所属し、このTシャツを着て、キャンパスで練習をしたりパーティーなどに招かれて技を披露したりしました。あの日々と共に、今も私の大切な宝物です。

毎日の生活は無数の選択の連続です。「何を食べるのか」「何時に寝るのか」、学校や仕事がない休日ならば「どこへ行って」「何をするのか」…。これらの“選択”は自分の内側にある意志で決定されているように思えますが、選択そのもの、そしてその選択が効率的に行えるかどうかについて、実は周囲の環境から大きな影響を受けています。もちろん、自分の意志が強く環境の影響を受けないという人も一定数はいるでしょうが、私自身も含め他大勢は周囲の環境に影響されることが多いと思います。

例えば、人々の活動や健康に関していえば、国内外のこれまでの研究で、運動しやすい環境に住む人は運動しやすくなり、歩きやすい歩道のある地域に住む人は歩行量が増える、という結果が報告されています。環境づくり、まちづくりが人々の選択・行動を変えているという可能性がこれらの結果からわかります。

私の研究室では、このような地域環境が地域住民の活動・健康に与える影響についての研究を行っており、主なテーマの一つに「高齢者が運転をやめても健康に生活できるまちづくり」があります。

近年、高齢運転者の事故が問題視され、運転免許返納促進の動きがありますが、地方の多くでは公共交通が衰退しており、運転をやめてしまうと買い物、通勤、社会参加などの活動が制限され、結果として寝たきりになりやすいなどの可能性が高くなります。交通環境の悪さにより外出するという選択ができなくなることで、健康

ゼミ紹介

生命環境学部
地域社会システム学科
平井研究室



地域環境が
人々に与える
影響について
研究する

山梨大学
生命環境学部地域社会システム学科
准教授

平井 寛
HIRAI Hiroshi

2002年京都大学大学院農学研究科地域環境科学専攻博士課程後期終了。その後、京都大学研修員、日本福祉大学主任研究員、岩手大学工学部准教授を経て、2016年より現職。

に影響を及ぼすということがわかります。

自家用車を運転しなくてもよい環境があれば、運転免許返納が進んで事故が減り、返納後もこれまでとかわらない活動性が維持できるはずですが、そういった環境の整備は簡単なことではありません。



買い物バス運行の社会実験

どうしたらこういった状況を改善することができるのか。改善方法の一つとして、まだ評価が十分でない公共交通の多面的な評価を試みています。例えば、路線バスは、運賃収入のみでは採算が取れないといった理由で廃線になる箇所が増えてきています。しかし、高齢者がバスを利用して外に出る機会が増えることで、健康寿命が伸び、結果的に地域・自治体が負担する介護費用の削減につながるかもしれません。一見、収支が合わない、赤字運行というマイナス面が目立つ路線バスですが、高齢者の外出を促進するツールとして整備することで、社会全体で見ればプラスの効果を生み出す可能性があるのです。

今後も環境が私たちの生活に与える影響について、そしてより良い環境づくりのために何が 필요한のか、学生たちと共に研究を進めています。

環境が私たちの生活に与える影響について、
より良い環境づくりのため必要なものは何か突き詰めていきます。



ゼミの様子



学生たちと議論



左から米山直樹教授、井上久美准教授、佐藤玄特任助教、高嶋敏宏准教授

ぴっくあっぷ
レッスン 34

授業のヒトコマ

担当教員

工学部応用化学科 教授
米山 直樹
YONENAMA Naoki

クリーンエネルギー研究センター 准教授
高嶋 敏宏
TAKASHIMA Toshihiro

工学部基礎教育センター 准教授
井上 久美
INOUE Kumi

工学部応用化学科 特任助教
佐藤 玄
SATO Hajime

化学実験

化学実験は、1年次で学んだ広範囲な基礎化学(物理化学・分析化学・無機化学・有機化学など)に基づき、化学実験操作の基本的技術を習得することを目的としています。3年次以降に学ぶ基礎工学・応用工学の授業科目や、高度な応用化学系実験に必要な基礎力を身につけるため、以下に示す12の実験テーマに取り組みます。

1. 金属イオンの反応と検出
2. 容量分析-標準液の調製と酸塩基滴定
3. 容量分析法による溶解度・溶解度積の測定
4. 吸光度法による銅(II)イオンの定量
5. アセトアニリドの合成と精製
6. 染料用アゾ化合物の合成と染色
7. 有機化合物の融点と混融試験
8. 分子模型と結晶構造描画ソフト
9. 分子の電子スペクトルと分子構造
10. 溶液の凝固点降下
11. 反応速度と活性化エネルギー
12. ヨウ素時計反応の反応次数



ビュレットを用いた滴定操作の様子



吸光度法による銅(II)イオンの定量

化学実験は、待ち時間の長いグループ実験は少なく、一人一人が実際に手を動かして一つ一つの実験テーマに取り組むため、実験操作の定着度が高い授業です。また、各テーマには非常に多くの実験手技が組み込まれています。例えば、「アセトアニリドの合成と精製」では、メスピペットを用いた試薬の秤量、加熱反応における実験機器の設置操作、ガスバーナーを用いた加熱操作、還流操作、吸引ろ過、熱時ろ過、再結晶など有機合成化学を行う上で必須の実験手技を学びます。「容量分析法」の実験テーマでは、精密天秤の使用法、ビュレットを用いた滴定操作など分析化学の基礎となる実験操作を身に付けることができます。

良い研究を行うためには、綿密な計画作成と実験後の考察が必要になります。化学実験では、予習ノート(実験計画書)の作成・実験後のレポート作成を通して、しっかりと知識が定着するような指導を心がけています。こういった作業は、学生実験だけでなく、卒業研究や就職後にも行うものです。化学実験を通して、基本的な実験手技・研究姿勢を習得し、3年次以降の応用化学実験や卒業研究につなげていって欲しいと思っています。



ガスバーナーを用いたガラス細工の様子



教員によるガラス細工の説明の様子

山梨大学を選んだ理由は？

母が習字の先生をしていたこともあり、小さい頃から“先生”という存在は身近なものでした。その影響もあってか、小さい頃の夢は“先生”になること。大きくなるにつれて自分が習ってきたピアノや習字などを活かせるのは小学校の先生なのではないか、と思うようになり小学校教諭を意識し始めました。私には小学校教諭として働いている兄がいるのですが、身近にロールモデルとなる存在がいたことも大きかったです。地元が山梨ということもあり、山梨大学の教育学部に進学しようと決めました。

実際に大学に入ってみてどうでしたか？

教員になりたいと思って大学に入ったのですが、実際はどんなことを勉強するのかよくわかっていませんでした。教育心理や発達心理などを学んでみて、とても興味深かったですし、教員になるということは「何かを教える」ということだけではない、と強く感じました。子供の心の発達、心理的なサポートの重要性も学ぶことができました。

教育学部といえば教育実習…教育実習を終えての感想は？

事前に先輩方から「大変だよ!」と言われていたので心していたのですが、始めてみるとあつという間でした。小学校と幼稚園へ3週間ずつ実習に行ったのですが、授業や遊びの中で、自分のやり方・関わり次第で子供たちの反応が変わってくる



教育実習を一緒に乗り切ったメンバーと

ことがとても面白かったです。また小学校と幼稚園の両方で実習できたことで、それぞれの違いを肌で感じることもでき、「小1プロブレム(*)」などについても改めて考えるきっかけになりました。

課外活動などはしていましたか？



地域アシスト活動で支援後に行う大学カンファレンス

4年生から地域アシスト活動に参加していました。この活動は対象の小学校へ赴き、一つのクラスに継続的にアシストとして入る活動を通して、見えてきたクラスの課題などを大学へ持ち帰り、よりよいクラス作りのためにはどうしたら



コースのみんなでBBQ

良いか、大学教員、大学院生、専攻科学生、現役の小・中学校・特別支援学校教諭の方と話し合うものです。学生のころからリアルな教育現場の問題などを目にすることができたこと、またその課題に対する改善策を考える機会があったことは、教職につく私にとってとても意味のある経験でした。

今後について教えてください

4月からは県内で小学校教諭として働きます。教育実習や地域アシスト活動を通して、教育の現場において主役は子供たちである、ということに改めて実感しました。子供たちをリードすることももちろん大切ですが、子供の様子をよく見て、その子のやりたいことをサポートしてあげられる、後ろからそっと背中を押してあげられるような先生になりたいと思っています。

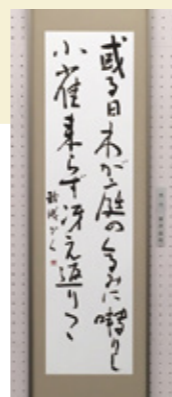
受験生にアドバイスを!

受験は個人戦でもあり、団体戦でもあります。隣で頑張っている友人はよきライバルであり、よき理解者です。私自身、同じように目標に向かって頑張っている友人の姿に、何度も支えられました。また、たまには息抜きも大切です。リフレッシュも意識しながら、受験を乗り切ってください!



友人と旅行。日本最古の学校「足利学校」へ

(*)小1プロブレム: 保育園や幼稚園を卒園した後に、子どもたちが小学校での生活や雰囲気になかなか馴染めず、落ち着かない状態が数カ月続く状態のこと。



展覧会で出品した作品

山梨大学を選んだ理由は？

1年生の時から市中の病院で実習を行う、早期臨床体験に魅力を感じ受験を決めました。入学して早々に現場を見ることができたことで、「医師になりたい」というモチベーションが上がりました。

医師を目指すようになったきっかけは？

幼少期に医療系のアニメやドラマを見て“医師”という職業に興味を持ちました。医学の知識を使って様々な病気の患者さんを治す姿を見て、とても感動したのを覚えています。

本格的に意識するようになったのは中学生の頃。部活動中にケガをして整形外科に通うようになったのですが、そのときの先生方がたくさん相談にのってくれたことがとても心に残り、病気やケガを治すだけでなく、患者さんに親身に寄り添う医師になりたいと思うようになりました。

実習を通して印象に残っていることは？

医師が手術を提案しても、手術を受け入れられない患者さんがいたことで



実習メンバーと



2021年1月の初射会

す。医師としては患者さんの病気を治したいという思いがあって手術の提案をしています。手術をすることに対する不安や身の周りの人に迷惑をかけてしまうという気持ちから、手術を希望しない患者さんに会いました。「患者さんを治したい」という気持ちと、「患者さんの考え方に寄り添いたい」という気持ちがあり、どう向き合っていくかが難しいと感じました。患者さんに寄り添いながら、その患者さんにとって最善の道を考えていきたいです。

大学生活はいかがですか？

大学から一人暮らしをすることになり、最初は生活リズムを整えたり、自炊したりするのが慣れず大変でした。実家にいたときはずっと両親に頼りっぱなしだったので、ありがたみが身にしみています。

部活動には入っていますか？

弓道部に入っています。高校生のときからやっていたので、もう8年目になります。

2年生のときは勉強や基礎医学実習が忙しくなり、部活との両立が大変でしたが、「単位を落とすくらいなら勉強を

優先する」というのが部の方針だったので、うまく両立することができました。



部活の先輩後輩と食事



高校時代の友人とフルーツ公園へ

受験生にアドバイスをお願いします!

受験期は「いろいろなことに疑問をもつこと」がとても大切です。参考書を見て、なぜその解き方が書いてあるのか、別解はないのかを常に考え、理解を深めてください。

また、自分が本当に理解しているのかを確かめるために、人に教えたり紙に書き出したりしてアウトプットすることも大切です。苦しい時期もありますが、最後まで諦めず、乗り越えてください!

“先生”になるという夢を実現するため勉強してきた4年間
子どもの背中をそっと押してあげられるそんな先生を目指します

教育学部幼小発達教育コース4年

宮澤 玲成

(山梨県出身)

MIYAZAWA Reina

close-up people

研究活動やサークル、プライベートに輝く山梨大生を紹介します。

クローズアップ
ぴ〜ぶる

患者さんの病気やケガを治すだけでなく、親身に寄り添う医師を目指します

医学部医学科5年

川森 淳司

(愛知県出身)

KAWAMORI Atsushi



旅行で長野へ。諏訪湖をバックに



Dance Club ◎山梨大学ダンス部

初心者も大歓迎!!

自分のやりたいスタイルで、楽しくダンス!

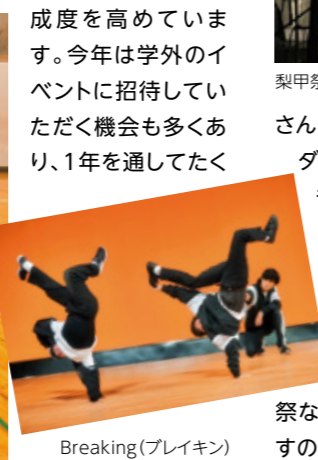
私たちダンス部が踊っているダンスは、ストリートダンスを中心としたものです。山梨大学ダンス部にはストリートダンスの代表的なジャンルである「Breaking」「Lock」「Pop」「House」のほかに、「Krump」「Middle」「Jazz」「Girls hip hop」の8ジャンルがあり、部員は自身の踊りたいジャンルに所属して

日々磨きをかけています。毎年何人が経験者はいませんが、その他はみんな初心者です。先輩から教わったり学外のイベントやworkshopで得たものを部に還元したりしてダンスを追求し続けています。

イベントがあるたび部員自ら振り付けや構成を考え、本番前は夜まで時間を共にして完成度を高めています。今年は学外のイベントに招待していただく機会も多くあり、1年を通してたく



部員集合



Breaking(ブレイキン)

【基本Data】
◎部員数：80人
◎主な活動場所：大学会館
◎活動日：毎週月・水・木曜日
◎SNS公式アカウント
Twitter(@Dance_Yamanashi)
Instagram(@dance_lovers.y)
YouTube(山梨大学ダンス部)



梨甲祭

さんダンスを披露しました。ダンス部に興味を持った方もそうでない方も、山梨大学ダンス部のYouTubeチャンネルで過去のダンス動画も見ることができますので、どんなパフォーマンスをしているのか実際に目で見て面白さを感じていただけたらと思います。また、TwitterやInstagramでは公演や学祭など出演するイベント情報を発信していますので、そちらもぜひチェックしてください!

Kyudo Club ◎医学部弓道部

初心者も経験者も自分のペースで上達できる
武道が気になっている人は必見!

弓道は武道なので厳しそう、難しそう...という印象を持つ人もいるかもしれませんが、私たち弓道部は和気あいあいと活動しています。「中高であまりスポーツをしてこなかった」という人も心配しないでください!上級生が最初から丁寧に教えてくれますし、未経験者でも試合で活躍している人はたくさんいます。また道着や着物を着てみると武道に触れている感じがするので、武道や日本文化に興味があるという人にもおすすめです!

試合は関東大会や東医体などの公式戦や他校との対抗戦があります。試合形式としては個人戦と団体戦があり、団体戦では主に6人1チームで弓を引きまします。個人競技として見られがちな弓道ですが、団体戦

では流れが重要で、矢声というもので互いに声をかけて励ましあうので、非常に盛り上がりやすいです!

弓道部は普段和やかに仲良く活動しつつも、守るべきルールはしっかり守り、気を緩めすぎず、武道としての弓道も、スポーツとしての弓道も突き詰められるよう部員一同励んでいます。また上級生の面倒見もよく、わからないことがあれば教えてくれたり、一緒に悩んでくれたりと、後輩思いの上級生が多いです。うまくいかずに躓きそうになった時でも、引っ張り



チーム一丸となって試合に臨みます



道場にて集合写真

【基本Data】
◎部員数：47人
◎主な活動場所：弓道場
◎活動日：毎週月・水・土曜日
◎SNS公式アカウント
Twitter(@ymnsh_kyudo)



四大学対抗戦にて

上げてくれます。

試合で活躍したいあなたも、弓道ってどんなものなんだろうと気になっているあなたも是非道場に足を運んでみてください!

Chorus ◎山梨大学合唱団

声を合わせ、心を合わせ
みんなで楽しく歌っています



合唱フェスティバル

私たち合唱団は、各種合唱イベントに参加するほか、自分たちで演奏会を企画運営し、積極的に活動しています。また、他大学との交流も盛んに行っていて、昨年度は山梨大学含め7大学での合同演奏会を実現することができました。異なる大学の合唱団とともに約150人で歌う機会は滅多にあるものではなく、とても貴重な経験となりました!

また、山梨大学合唱団は樹の会という合唱団体に所属しています。音楽監督兼常任指揮者に山梨県出身で指揮者として活躍し



団員全員で声を合わせて!

ている藤井宏樹先生をお招きし、日々充実した合唱活動をしています。特に年に1度の定期演奏会ではその年の集大成として、そして日頃支えていただいている方々へ感謝を届けるために演奏しています。また、シアターピース形式の合唱オペラの上演といった山梨大学合唱団だからこそできる活動も行っています。

演奏会だけでなく、毎年恒例のお花見や



7大学合同演奏会集合写真

【基本Data】
◎部員数：18人
◎主な活動場所：LC-27教室、学生会館
◎活動日：週4日
◎SNS公式アカウント
Twitter(@nashidai_chorus)
Instagram(@nashidai.chorus)
YouTube(山梨大学合唱団)

クリスマスパーティー、ハロウィーンの仮装パーティーなどの遊び企画も盛りだくさんです。団員と共に歌い、遊びながら充実しすぎた大学生活を送っています!

男女や学年関係なく、声を合わせ、心を合わせ日々歌っている楽しいサークルです。少しでも興味湧いた人は各種SNSもぜひチェックしてみてくださいね。体験練習、見学いつでも受付中です。皆さんと一緒に歌う日々を楽しみにしています。

Symphony orchestra ◎医学部交響楽団

魅力は部員全員で作り上げる一つの音
ぜひ私たちと一緒に演奏しませんか?

交響楽団とは、「オーケストラ」とも呼ばれ、弦楽器、管楽器、打楽器で構成されており、主にクラシック音楽を演奏します。部員は、初心者から楽器経験者まで様々な人が所属していますが、半数以上は大学から楽器を始めています。なので、楽器に触れたことがないという人でも安心してください。先輩たちが一から教えてくれます!実は、現指揮者も幹部も大学から楽器を始めました。

私たちの部の特徴は、曲決めから企画、運営、指揮まで全て学生が行っていることです。毎年10月に行う定期演奏会と、3月に行う

スプリングコンサートに向けて日々練習を重ね、毎週土曜日には全体合奏を行います。また、本番1か月前には合宿やアンサンブル大会を行い、互いに演奏レベルを高め合います。こうして徐々に準備を進めていき、本番を迎えます。オーケストラの魅力といえば、何となく全員の音が1つになる喜びです。最初はバラバラだった音が1つに重なりホールに響き渡る瞬間、それを観客の皆さん、部員のみならず共有できる瞬間は格別です。ここ3年間はコロナウイルスの影響で有観客での開催が出来ていませんが、今年こそは皆さん

【基本Data】
◎部員数：63人
◎主な活動場所：福利厚生棟
◎活動日：毎週土曜日
(演奏会1か月前は毎週水、土曜日)
◎SNS公式アカウント
Twitter(@uym_orchestra)
Instagram(@orchestra_ymu)



アンサンブル大会の様子

に私たちの演奏を聴いて頂きたいです!



定期演奏会での集合写真



昨年10月に行われた定期演奏会での演奏風景

NEWS & TOPICS 1

小・中学生向け教育プログラム「やまなしジュニアドクター育成自然塾」始動!

本学では、国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST) の支援を受け、県内外の小学5年生から中学3年生を対象とした、新たな教育プログラムを始動させました。

本プログラムでは、南アルプス・ユネスコエコパークを活用した体感的な観察・調査、山梨大学キャンパス内での講義や研究を通じて、環境化学、生態学、生物学、コンピュータ理工学、社会科学などの視点から幅広く自然と社会を理解し、「自由な発想で新しいアイデアや技術を創造し、持続可能な社会の実現に貢献するひと」を育成することを目指します。



NEWS & TOPICS 2

文部科学省 令和4年度 大学教育再生戦略推進費「地域活性化人材育成事業～SPARC～」に採択

本学が事業責任大学となり、山梨県立大学を事業の参加校として申請していた「知(地)のソーシャルキャピタル～学びの山梨モデル～構築事業」が、「地域活性化人材育成事業～SPARC～」(以下、SPARC *)へ採択されました。

今後は大学等連携推進法人制度の教学上の特例措置などを利用した教養教育改革や、文理横断型の特別教育プログラムの開設、令和10年4月に文理横断型の教育を基盤とした学部等の再編を実施する計画です。SPARCの実施にあたっては、地方における新たな大学改革の先駆けモデルになるよう努めていき、地域が真に求める人材を育成することで、地域の発展に貢献していきます。

*SPARC…地域社会と大学間の連携を通じて既存の教育プログラムを再構築し、地域を牽引する人材を育成することを目的とした事業



採択後の記者会見の様子

NEWS & TOPICS 3

令和5年度山梨大学・読売新聞連続市民講座「知る喜び～ひと・くらし・けんこう～」

本学では令和5年度も読売新聞甲府支局との共催で、「知る喜び～ひと・くらし・けんこう～」と題した全10回の連続市民講座を開催します。

聴講無料。令和5年4月～令和6年3月の第3土曜日(11月のみ第2土曜日。8月及び1月は休講)、本学の教員が専門の分野を図解等用いてわかりやすく開催します。

【日時・場所】

開催日: スケジュール一覧表参照
時間: 13:30～15:00(開場13:00)
受講料: 無料

【お問い合わせ先】

山梨大学教務企画課連続市民講座担当
電話:055-220-8043 FAX:055-220-8796
メール:koukai-kouza@yamanashi.ac.jp

※申込方法や詳細は、大学HPでご確認ください。
※今後の状況により、開催方法等変更となる場合があります。



【スケジュール一覧表】

(令和5年2月17日時点)

	開催日	講義タイトル	所属	講師
第1回	2023年 4月15日(土)	糖尿病ってどんな病気? ～理解と予防と付き合い方～	医学部	土屋恭一郎
第2回	2023年 5月20日(土)	これからの時代の感染症対策	医学部	井上 修
第3回	2023年 6月17日(土)	土砂災害に備える ～山梨で発生する地盤災害について～	工学部	後藤 聡
第4回	2023年 7月15日(土)	発酵食品って何? ～基礎から商品開発まで～	生命環境学部	柳田藤寿
第5回	2023年 9月16日(土)	仮想空間のための技術 ～CG/VR・シミュレーション・AIで生活を豊かに～	工学部	安藤英俊
第6回	2023年 10月21日(土)	宇宙に学ぶ新エネルギー材料創製	工学部	佐藤哲也
第7回	2023年 11月11日(土)	古代の富士山噴火と地域社会 ～貞観の大噴火を中心に～	教育学部	大隅清陽
第8回	2023年 12月16日(土)	男性にもある更年期障害	医学部	澤田智史
第9回	2024年 2月17日(土)	海の微生物がつくる雲 ～気候と生物の相互作用	生命環境学部	松本 潔
第10回	2024年 3月16日(土)	こころを癒すカウンセリング心理学の世界 ～援助者の効果的なコミュニケーション～	教育学部	田中健史朗

※講義内容は変更となる場合があります。予めご了承ください。

YAMANASHI KYORITSU GROUP
Recruiting Site

山梨共立グループ採用募集中

無差別・平等の医療で地域のニーズに誠実にこたえるプロフェッショナルを養成します。

病院・職場見学やインターンシップも随時受付中!

医療職を目指す方は採用サイトをチェック!

Check Here!

山梨共立グループの働き方がここに!
recruitkyoritsu.com

令和5年度 学年暦(年間予定表)

事項	期日等
前期開始	4月 1日(土)
ガイダンス等	4月 3日(月)～4月12日(水)
入学式	4月 6日(木)
前期授業開始	4月13日(木)
前期授業終了	8月 1日(火)
夏季休業	8月 2日(水)～9月21日(木) 各学部で定める
秋季卒業式・修了式	9月26日(火)
前期終了	9月30日(土)

(注) 1. 授業振替日とは、授業回数が不足している曜日について、当該不足曜日の授業を振替えて行うものです。

事項	期日等
後期開始	10月 1日(日)
開学記念日	10月 1日(日)
秋季入学式(大学院)	10月 2日(月)
後期授業開始	10月 2日(月)
大学祭(医学部キャンパス)	10月27日(金)～10月29日(日)
大学祭(甲府キャンパス)	11月 3日(金)～11月 5日(日)
冬季休業	12月23日(土)～1月 3日(水) 各学部で定める
授業振替日	1月 9日(火) 月曜日の振替日
授業振替日	1月10日(水) 金曜日の振替日
後期授業終了	1月31日(水)
春季休業	2月 1日(木)～3月31日(日) 各学部で定める
卒業式・修了式	3月22日(金) 予定
後期終了	3月31日(日)

5G時代を支える 通信用デバイスで明日を創る



山梨県中巨摩郡昭和町紙漣阿原1000
(本社:神奈川県横浜市栄区金井町1番地)

<http://www.sedi.co.jp/>



私たちは、組合員や地域の皆さまに、
より良いサービスを提供し続けることをお約束します。



今号の表紙 山梨大学の研究と春



リニューアルされたワイン科学研究センターでは、日々最新のワイン科学研究が行われています。
今回の表紙イラストは、大学で行われている研究、山梨の代名詞である葡萄、暖かな春の訪れを告げる桜のコラボレーションです。
新学長が誕生し、新たな一歩を踏み出すこととなった本学は、今後も「地域の中核・世界の人材」育成のため邁進していきます。
今回のVineもぜひ楽しんでご覧いただければ幸いです。

[表紙イラスト制作]
ぐらいいん屋(鈴木律) ✉ ritsukomobo@gmail.com

有料広告を募集します。 山梨大学広報誌Vineに「広告」を出しませんか?

広報Vineは、毎年2回、全国の教育機関等に配布しています。ぜひ、貴社の広告、PR活動にお役立てください。詳しくは、本学ホームページをご覧ください。

山梨大学広報 **ヴァイン** | 2023 vol.42 Spring



[本誌に関するご意見・お問い合わせ先]

山梨大学企画部広報企画課

TEL:055-220-8006

E-Mail:koho@yamanashi.ac.jp



公式HP



公式Twitter